

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

3

男子 女子 2 回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
北海道函館工業	<u>17</u>	5	—	20	県立浦添
		12	—	12	
		—			
		—			
		—			
		7mTC			
			<u>32</u>		

2 回戦、初戦、武庫川を下した浦添と函館工業との対戦。函館工業のスローオフで試合開始。

開始 2 分。函館工業の警告からペナルティースローで浦添先制点。その後函館のミスが続き連続得点

4-0 で浦添がリードの展開。5 分過ぎ函館工業タイムアウト。堅いディフェンスにシュートを許しても

らえず苦しい展開が続く。12 分函館工業 3 番佐藤、4 番北畠のゲームメイクにより、2 点連続得点す

るも 13 分過ぎ 3 番佐藤退場。その間浦添 7 番エース新里と 8 番ゲームメイカー東江の活躍により連続

得点。ラスト 10 分 12-3 で浦添リード。やや疲れの見える函館工業のミスに容赦なく畳みかける浦添

セブン。函館工業 2 番主将川村が、意地を見せ得点するも点差は詰まらず、浦添ペースで前半終了。

函館工業 2 番川村の先制点で後半スタート。両チームリズムを渡さない攻防が続く中、4 分函館工業

2 番川村退場。浦添にミスが増え始め、函館 3 番佐藤が 1 点追加し 13 分 26-8。浦添はメンバーチェン

ジを繰り返す、15 分過ぎ、浦添 15 番国吉退場。その間函館工業 3 番佐藤、5 番中山により連続得点。

ラスト 10 分浦添 5 番知名退場により 4 点連続、函館工業の猛反撃が始まり 23 分 28-15。積極的な攻

撃で点を重ねるが、最後まで点差は詰まらず、浦添が 32-17 で勝利した。

2016 年 3 月 25 日

記載者氏名 山城梨沙

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

4

男子 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 B コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
高岡向陵	13	6	6	名古屋経済大学市邨
		7	12	
		—	—	
		—	—	
		—	—	
		7mTC		

2回戦、1回戦を下した高岡向陵対今大会初戦となる名古屋経済大学市邨の対戦。お互いシュートが決まらず0対0が続いたが、開始6分高岡向陵4番濱下のシュートから試合が動く。すぐさま名経大市邨も14番高木のシュートで同点とした。高岡向陵8番木村が退場し、名経大市邨がすかさず逆転したものの、高岡向陵もすぐさま同点にした。2対2のまま均衡状態であったが、17分高岡向陵15番中村のシュートを皮切りに連続得点をあげる。しかし、名経大市邨も連続得点により、4対4と互角の戦いを続ける。その後1点ずつを取り合う展開を見せ、6対6の同点で前半を終える。

後半開始直後、高岡向陵が退場したことをきっかけに、名経大市邨は6番鈴木のカットインからのステップシュートが決まる。これを皮切りに3連続得点をあげ、6対9とした。高岡向陵も1点は返すものの、名経大市邨にノーステップシュートやカットインを決められるようになり、退場が出るまでに。その後も名経大市邨は攻撃の手を緩めず、多彩なシュートやノーマークシュートで最大6点差まで広げる。その後も名経大市邨は得点を重ね、高岡向陵の反撃及ばず13対18で名経大市邨が勝利を収めた。

2016年 3 月 25日

記載者氏名 藤岡 秀行

戦 評 用 紙

男2

男子・女子 2 回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 神戸市立中央体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
育英	24	10	—	23	横浜創学館
		14	—	22	
		—	—	—	
		—	—	—	
		—	—	—	
		7mTC			

2 回戦、いずれも初戦となる横浜創学館（神奈川）と育英（兵庫）の対戦は、育英のスタートで始まった。先制したのは横浜 17 番輪島のシュート。その後も、横浜は、14 番中田のサイドシュートなど多彩な攻撃で得点を重ねる。一方、育英は横浜の動きの良い守りが大きな壁となり、なかなかシュートに結びつかない。17 分過ぎ、大活躍の横浜 14 番中田が負傷でベンチに下がるも横浜の攻撃は休むことなく、前半は 23 : 10 と横浜が大きくリードして折り返した。

後半は立ち上がり、横浜 5 番坂井が立て続けに 2 本のシュートを決めた。その後、しばらくは横浜ペースで試合が運び、10 分過ぎには、32 : 14 と差は開いた。25 分くらいまでは、育英の守りからの速攻も機能し、お互い取られては取り返すという一進一退の状況が続いた。終盤のころ 5 分では、再び、横浜の攻撃が厳しく 4 点連続得点と育英をつき話した。結果、45 : 24 と初戦同士の対戦は、横浜が制した。

平成 28 年 3 月 25 日

記載者氏名 小川 健三

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

8

男子 2 回戦

会場 神戸国際大学附属高等学校体育館

コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
明星	<u>26</u>	14	—	20	北陸
		12	—	15	
		—			
		—			
		—			
		7mTC			
			<u>35</u>		

開始30秒余、北陸の得点からスタートした。10分過ぎまで、両チーム6点まではシーソーゲームであった。しかし、前半中盤、北陸のカットインオフENSに対し、明星のディフェンスで退場者を出すことが重なった。その間に北陸はリードを広げ、前半は明星14点、北陸20点で折り返した。

後半、一瞬で攻守が入れ替わる目まぐるしい展開となった。明星のキーパーは、再三好守で健闘するも、攻撃の手数に勝る北陸がじわじわと点差を広げた。最後の10分で、明星3得点に対し、北陸は7得点をあげ、9点差で北陸が明星を突き放し、勝利した。

2016年 3月 25日

記載者氏名 原田 邦彦

戦 評 用 紙

13

男子 ・ 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 高砂市総合体育館

コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
香川中央	37	16	—	12	帝京安積
		21	—	7	
		—	—	—	
		—	—	—	
		—	—	—	
		7mTC			
			19		

立ち上がり香川中央高校が岡田のゴールなどで4-0とリードするも、7分過ぎから少しずつ動きがよくなってきた帝京安住高校もキャプテン森川や小澤を中心とした攻撃で徐々に点差をつめ、一時2点差まで迫るが、香川中央も小島のゴールなどで再び点差を広げる。その後も試合を優位に進めようとする香川中央高校だが、帝京安積のキーパー齋藤の好守もあり、なかなか点差を広げられず、中盤以降は一進一退の攻防を繰り返す試合展開となり、結局前半は16-12で香川中央高校のリードで折り返した。後半は開始時から香川中央高校のペースで試合が進み、香川中央木村、川村、奥村などのゴールで得点を重ね、後半15分すぎには10差をつけるなど、試合を優位に進めていった。その後も着実に得点を重ねていった香川中央高校が後半だけで21得点をあげるなど、攻守にわたり帝京安積を圧倒し、試合は37-19で香川中央高校が勝利を収め、3回戦へ駒を進めた。

28年 3月 25日

記載者氏名 雪岡 恭介

戦 評 用 紙

13

男子 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 加古川市立総合体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
高津	22	9	7	郡山女子大付属
		13	7	
		7mTC		

高津のスローオフで試合開始。激しい攻防が続く中、開始3分45秒、高津3番中村のシュートで試合が動き始める。高い身長を活かした郡山と、速いパス回しで相手を崩す高津。流れの引き合いが続く。16分郡山に退場者。1点リードを奪った高津は流れをつかみ3連続得点。郡山の速攻が決まるが、すぐさま高津が反撃。その後、点の取り合いが続く。前半終了1分前、高津3番中村のロングシュートが決まる。7-9で高津がリードし前半終了。後半開始直後、郡山2番遠藤の7mスローが決まるが、高津の連続得点。細かなメンバー交代で運動量を確保する高津にチャンスの芽を奪われる郡山。6分過ぎ、郡山に退場。7mスローを含め4連続得点で15-7と8点差がつく。暫く両チームともに得点が奪えなかったが11分過ぎ、高津3番中村のシュートから連続得点が決まる。18分過ぎから郡山9番鈴木・13番坂牧のシュートが決まり追い上げムードとなるが、高津キーパー渋谷・佐々木がゴールを守る。24分高津に退場があるも、10番井上・13番塚原のシュートが決まる。最終的に22-14で高津が押し切った。

2016年 3月 25日

記載者氏名 塩谷 裕司